

みやこじま



宮古島の夏開幕!

～ 第32回 宮古島の海びらき ～

4月4日、下地の前浜ビーチで「サンゴの楽園未来まで集まれ 遊ぼう 宮古島の海びらき」をテーマに、宮古島の海びらき（主催：宮古島観光協会）が開催されました。

今回で32回目となる海びらきには、子ども連れの市民や観光客など、約3,000人が参加。初泳ぎや音楽ライブ、エビとフナキのつかみ取り、モズク収穫体験、今年からビーチ協会公認となったビーチサンダル飛ばし大会など多彩な催しを楽しみました。

また、イベントの最後には「ノーボーイ運動」として来場者全員でビーチのゴミ拾いを行い、環境保全に対する意欲を高めました。



今月の主な内容



宮古島のイメージキャラクター
「みーや」

平成 22 年度 当初予算P2
児童福祉だより（子ども手当・児童福祉週間）P5
お知らせ（春の行政相談所 ほか）P8



平成22年度 当初予算

宮古島市の平成22年度予算案が3月定例議会で可決されました。今年度の当初予算は、子ども手当の創設等により、前年度より増額予算となります。その内容を紹介します。

予算の特徴

一般会計340億2,200万円
前年度比25億8,000万円増

今年度の一般会計予算額は、340億2,200万円、昨年より25億8,000万円(8.2%)の増額となりました。特別会計額は125億3,800万円、前年度より53,450万円(0.4%)の増額となっています。

自主財源率の向上が課題

歳入予算を財源別に見ると、市税などの自主財源は16.4%(前年度比1.8%増)、普通交付税、国・県支出金などの依存財源が83.6%(前年度比9.6%増)となっています。

また今年度の国庫支出金は子ども手当が創設されたことにより、前年度比18.1%の増となっています。

民生費・衛生費・教育費等が大幅な増加

今年度の当初予算における特徴として、民生費で12.0%増、衛生費が39.8%増、教育費が16.6%増と前年度に比べて大きく増加していることがあげられます。

これらの主な要因としては、民生費では子ども手当創設による5億5千万円の増、衛生費では、し尿等下水道投入事業に係る施設整備に約3億9千万円、葬祭場建設事業の約1億9千万円の増。教育費では、平良中学校の改築約5億9千万円増などがあります。

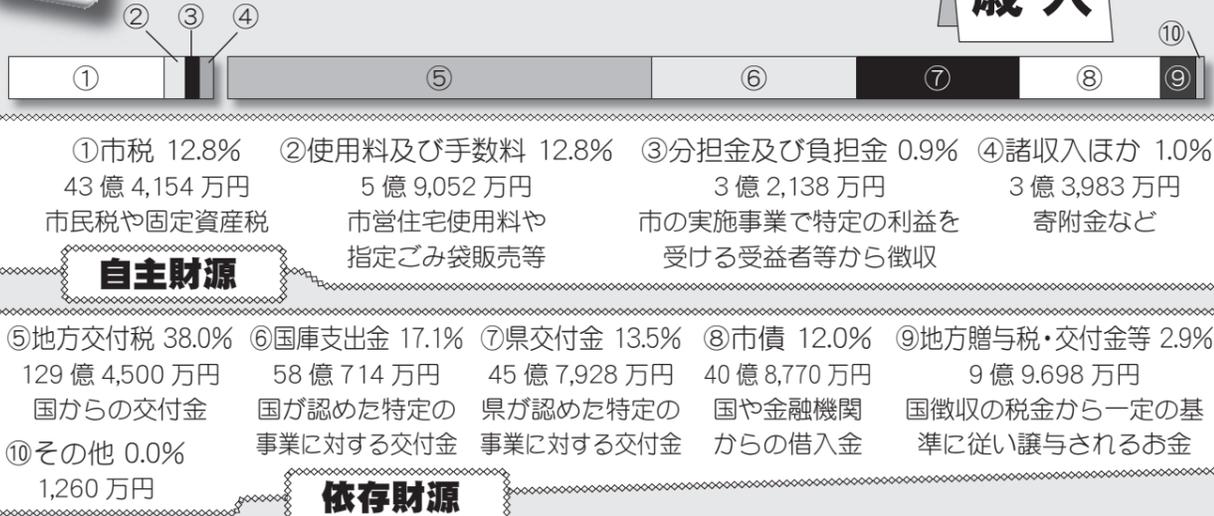


各会計予算総括票

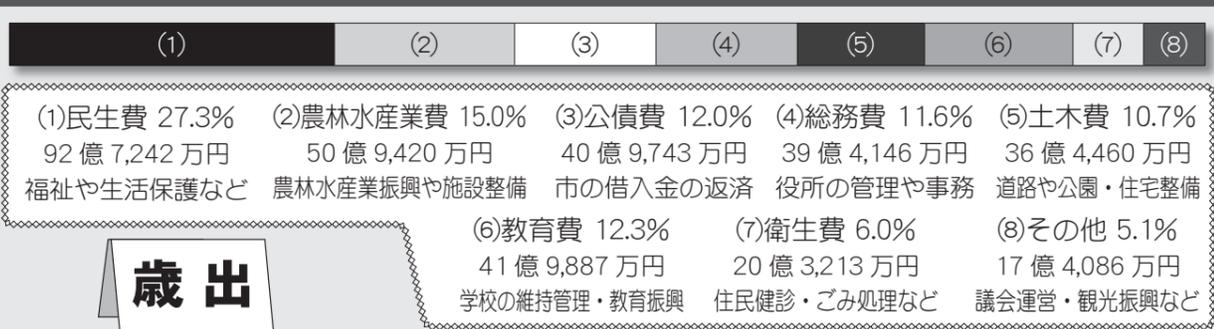
会計名	予算額	増減率
一般会計	340億2,200万円	8.2%
特別会計	125億0,000万円	0.4%
国民健康保険事業特別会計	64億7,099万円	-0.9%
港湾事業特別会計	1億5,886万円	-27.6%
老人保健特別会計	193万円	-80.2%
農漁業集落排水事業特別会計	7,129万円	30.9%
公共下水道事業特別会計	5億6,870万円	0.2%
介護保険特別会計	47億9,751万円	3.0%
後期高齢者医療特別会計	4億3,108万円	4.7%

一般会計 340億2,200万円 歳入・歳出の割合

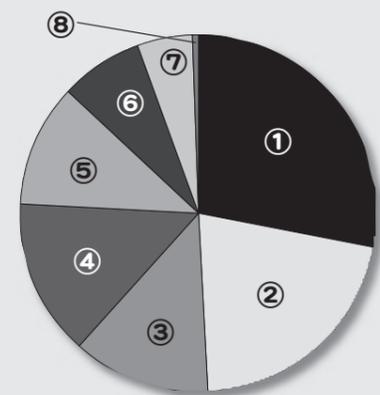
歳入



歳出



歳出の性質別内訳



平成22年度の主要事業

- ・エコアイランド推進費
- ・牛まつり
- ・宮古島市大使制度
- ・し尿等下水道投入事業
- ・全国高校総体推進事業(継続)



宮古島の平成22年度当初予算(一般会計)を家計(年必要生活費500万円)に例えると...

一般会計予算(年額)		家計に例えた場合(年額)	
市税	43億4,154万円	給料	64万円
負担金・使用料など	11億174万円	臨時(パート)収入	16万円
地方交付税・地方譲与税	139億5,459万円	親からの仕送り	205万円
各種交付金		親から特別に貰う仕送り	153万円
国・県支出金	103億8,642万円	ローンの借入	60万円
市債	40億8,770万円	預貯金の取り崩し	2万円
繰入金	1億5,001万円		
合計	340億2,200万円	合計	500万円

一般会計予算(年額)		家計に例えた場合(年額)	
人件費	72億6,737万円	食費	107万円
物件費など	37億6,564万円	光熱水費、通信費	55万円
投資的経費・維持補修費	96億9,791万円	自宅の増改築、修繕費	143万円
扶助費	48億9,671万円	医療費、保険料、介護サービス、利用料等	72万円
補助費等	16億7,262万円	子どもへのこづかい、教育費、自治会費など	25万円
公債費	40億9,744万円	ローンの返済	60万円
積立金・貸付金など	3,511万円	預貯金	1万円
繰出金	25億8,921万円	子どもへの仕送り	38万円
合計	340億2,200万円	合計	500万円

宮古島市		家計に例えた場合	
市債残高	397億7,640万円	ローンの残高	585万円

1年間に必要な生活費500万円を賄うために、自ら稼いだ収入は給料は64万円、パート収入16万円のわずか80万円と少額なのに対し、親からの仕送り等は205万円(+153万円)と多額。なお、それでも不足する額をローンの借入60万円に対応している状況となります。

まとめ

今年度は、新しく創設された子ども手当や中学校の改築工事の費用等により、前年度比で25億8000万円の増額予算となっております。

しかし、5年後の平成27年度以降は、合併したことによる地方交付税の特例分が段階的に削減されていくこととなりますので、これまで以上に歳出予算の見直しを図るとともに、基金等への積み立てを行っていかねばならず、今後も厳しい財政運営は避けられない状況です。

職員一同、今後とも財政計画等に沿った効率的かつ効果的な行政運営を目指し、徹底した財政改革に取り組みしていきますので、市民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

宮古島市総務部財政課
☎ 72・3751

児童福祉だより

児童家庭課 73・1966
相談室 73・1947

「子ども手当制度」について

子ども手当は、時代の社会を担う子どもの健やかな育ちを社会全体で応援するという趣旨のもとに親等に支給するものです。

《支給対象と手当額》

★対象：満15歳以後最初の3月31日までの間にある子どもの保護者
★手当額：月1万3千円

《支給手続きについて》

支給手続きは、9月30日まで受け付けています。

★手続きの必要がない方

平成21年度に小学6年生以下の児童(0〜12歳)の保護者

★手続きが必要な方

- ①平成22年度に中学校2年生 または3年生になる子ども (平成7年4月2日〜平成9年4月1日生)の保護者
 - ②所得制限により児童手当を受給していない保護者
 - ③児童手当が未現況などで支払いが差し止められている保護者
- ※①または②に該当している方は「子ども手当認定請求」の手続き

が必要で

また、①のうち、これまで児童手当を受給していた保護者の方は「子ども手当改訂認定請求」の手続きが必要になります。

《認定請求に必要なもの》

- ・普通預金通帳(請求者名義)
- ・健康保険被保険者証(請求者のもの)
- ・印鑑(認印可)



お問い合わせは

- 児童家庭課 ☎ 73-1966
- 市民福祉課 ☎ 77-2688 (城辺)
- ☎ 76-3020 (下地)
- ☎ 76-2482 (上野)
- 福祉室 ☎ 78-6252 (伊良部)

平成22年度児童福祉週間

5月5日(木)〜11日(水)



市長からのメッセージ

「こどもの日」は「子どもの人格を重んじ、子どもの幸福を図るとともに、母に感謝する」を趣旨として定められた国民の祝日です。

5月5日は、お子さんと楽しい団らんを計画され、子どもの健やかな成長、幸せについて考える意義深い一日であることを願います。

宮古島市では、5月5日の「こどもの日」から一週間を児童福祉週間として、平成22年度全国統一標語「地球はね笑顔が つまった星なんだ」をテーマに、全市民に児童福祉の理念の一層の周知を図るため、家庭、学校、児童福祉関係団体等、地域社会が一体となって、子ども達を対象とした各種催し物に取り組んでいるところです。

市民の皆様におかれましては、つどいの広場、学童クラブ等各種の児童福祉施設を活用され、すべての子ども達が、家庭、地域社会において、豊かな愛情に包まれ、夢と希望を持って、個性的に成長していける環境づくりに一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

宮古島市では、行政と保護者及び市民が一体となって、本市の宝である児童を心身ともにたくましく育成するように務めるため、5月5日から始まる児童福祉週間の行事の一環として、絵画作品の展示・鯉のぼりを掲揚して、健全育成活動の一層の普及と向上を図ります。

- 《鯉のぼり掲揚》
こどもの日の象徴である鯉のぼりを市役所に掲揚します。
・日時：4月22日(木)10時
・場所：市役所各庁舎ロビー
- 《絵画展示》
市内の保育園の子ども達が書いた絵を展示します。
・日時：4月23日(金)〜5月7日(金)
・場所：市役所各庁舎ロビー

うまかい!がまかい!

宮古島の話題

[The Topics]



海・風・太陽 熱き想い君を待つ ⇒ 第26回 全日本トライアスロン宮古島大会 ⇒

写真特集

4月18日、第26回全日本トライアスロン宮古島大会が開催され、国内外から出場した1500人が、自身の体力の限界に挑戦しました。当日は、強風の吹く悪天候、さらに今年から30分短縮された制限時間という条件にも負けず、1207人が完走。優勝は、男子がウォルフガング・グエンベル(カナダ)、女子がタマラ・コズリナ(ウクライナ)となり、選手と市民が一体となったレースは幕を閉じました。



「一筆物語」募集!

- 内容：暮らしの中のちょっとした出来事(30字以内)
毎月掲載者の中から抽選で1名に図書券を進呈します
- 応募：ハガキ・FAX・メールで下記まで
※住所・年齢・名前(匿名・ペンネーム可)を明記すること
〒906-8501 宮古島市平良字西里186 広報みやこじま「一筆物語」宛
TEL: 72-3751 (内線304) FAX: 73-1645
E-mail: kouhoubosyu@city.miyakojima.lg.jp



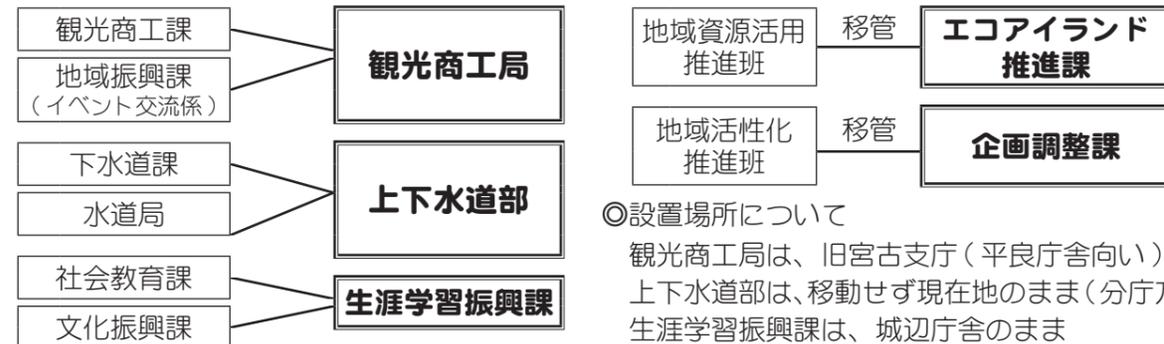
4月から

「観光商工局」と「上下水道部」が配置されました!

宮古島市では、職員の適材適所と事業等の円滑な執行体制の構築を目的に組織改編を行いました。最も大きな改編として、これまでの観光商工課と地域振興課(イベント交流係)を統合・再編し、新たに「観光課」と「商工物産交流課」を有する「観光商工局」を新設しました。また、水道局と下水道課を統合・再編し「上下水道部」を新たに配置しました。「上下水道部」内の課はスリム化を行い、これまで水道局内にあった管理課を「工務課」、保全課を「浄水課」にそれぞれ統合しました。

また、経済部の名称を「農林水産部」に変更、企画政策部内のプロジェクトチームだった地域資源活用推進班を「エコアイランド推進課」に、地域活性化推進班を「企画調整課」にそれぞれ移管しました。教育委員会においては、社会教育課と文化振興課を統合し「生涯学習振興課」としました。

《主な改編内容》



◎設置場所について
観光商工局は、旧宮古支庁(平良庁舎向い)
上下水道部は、移動せず現地のまま(分庁方式)
生涯学習振興課は、城辺庁舎のまま
お問合せは 総務課 ☎ 72-3751

宮古島市定住自立圏中心市宣言 ～ 地域間の均衡ある発展をめざして～

合併前の旧市町村では、個性豊かな文化や歴史を背景に、独自のまちづくりを進めながら発展してきましたが、少子高齢化等による人口減少及び財政状況の悪化などの様々な課題に対して、個々の市町村の取り組みではその対応に限界が生じていました。

このような状況を、圏域の共通課題として認識するとともに、力を合わせて様々な課題に一体的総合的に対応し、自立の道を切り開くため平成17年10月1日、合併により宮古島市が誕生しました。

広域合併により誕生した宮古島市は、合併前の旧平良市が中核的な役割を担っており、医療・福祉、教育、交通、商業施設及び、国・県の行政機関等も集積しており、都市部の機能はある程度果たせる状況にあります。今後は、圏域全体の暮らしに必要な都市機能の一層の充実を図るため、諸インフラや諸施設の整備を進めていかなければなりません。

また、旧町村部は、定住化を促進するため、必要な生活機能を確保するとともに、農林水産業の振興や観光資源の保全を図るなど、地域の特性を活かした取組みが必要です。

都市部と旧町村部は、お互いに連携・協力することにより、圏域全体を「集約とネットワーク」の構築を積極的に推進することが重要です。

このため、合併前の旧平良市を中心地域とし、旧3町1村(旧城辺町、旧下地町、旧上野村、旧伊良部町)を周辺地域とする「宮古島市定住自立圏」の確立を図り、更なる宮古圏域全体の均衡ある発展を目指すことを、ここに宣言します。

平成22年3月30日 宮古島市長 下地 敏彦

「宮古島市定住自立圏 中心市宣言」

宮古島市は、3月30日に「宮古島市定住自立圏中心市宣言」を行いました。

この宣言は、中心市で圏域に必要な都市機能(官公庁や総合病院、大規模商業施設など)を集約的に整備するとともに、周辺圏域に必要な生活機能(農林水産業の振興や自然環境の保全)を確保することで「定住自立圏」を形成し、圏域全体の活性化を図ることを目的とするものです。

今後、宮古島市では「定住自立圏」形成に向けた計画を策定し、推進していく予定です。

詳しくは 企画調整課 ☎ 72-4878